

# 設立趣旨書

## 1 趣旨

現在、様々な局面において情報システムの重要性が増している。ニーズの多様化に伴って、コストダウンの要請と要件の高機能化という相反する状況がかつて無いほどに進んでいる。これに応え得るひとつの方策としてオープンソースという手法によるボランティア主導型のソフトウェア開発が有力である。しかしながら、現在一般的に知られているオープンソースソフトウェアは海外製のものが多数を占めており、国内の事情に必ずしも合致するわけではない。

一方で翻って国内を見渡した場合、決して技術的に見劣りがするわけではない。むしろ複雑な要件に対応するためにきめ細やかなことをしており、これは海外に対して資する価値を有するものであると考える。にも関わらず輸入超過とさえ呼べる状況に留まっているのは、海外においてオープンソースによるソフトウェア開発を強力に支援する仕組みが定着しているのに対して、国内においては残念ながらそのような仕組みがまだまだ未熟なためであると考えられる。

情報システム構築の現場における知見を活かし、実情に即したソフトウェアの提供をより効果的に行う仕組みが確立すれば、優秀な技術力の集積と成果の広範な提供が促され、日本のソフトウェア開発力の向上に寄与し、ひいては情報システムに対する要求へのより適切な対応を実現することを通じて、経済活動全般の活性化につながるものとなると思う。

このような考えの元、既に我々はボランティアベースによって多くのソフトウェア開発を推進してきた。その成果に対する評価は当初の予想を遥かに上回り、多くの媒体などにおいて注目を集めると同時に、早々から実際に多くの現場への適用が報告されている。

このような流れの中、単なる趣味ではなく企業の情報システムを支え得る体制の提供が求められるようになった。これを実現するにあたり法人化を行うことが最適であると判断し、この度設立を決断したものである。

## 2 申請に至るまでの経過

趣旨の項に述べたとおり、我々が対象としているのは企業が業務遂行において利用する情報システムの基盤技術の提供である。申請以前にも趣旨内容に従って活動してきた。具体的には、

1. ソフトウェアの開発と提供
2. 利用における知識習得のための教育・研修の提供
3. 技術者・ユーザの人的交流の場の提供

などを行ってきた。1. については、既に 30 を超える製品の開発と提供を行っており、延べにして 80,000 件以上のダウンロードが行われている。2. については、各種媒体における記事の執筆や各種セミナーの開催などを行い、2004 年 11 月には東京において 170

人弱の人数が一同に会する規模となった。また沖縄・福岡・大阪においてもセミナーを開催し、多くの方々からの好評を博した。3. については2. におけるセミナーと連動する形で懇親会などを企画。この場をきっかけとして新たな取引などが生まれるなど、有意義な成果が多数報告されている。

このように、我々が提供するものは企業活動を支えるものであることから、持続性・透明性への要望が初期から寄せられてきた。特に持続性については非常に重要視されており、突然製品の提供が停止したり品質改善が行われなくなってしまうという事態は、採用側の企業にとって決して許容し得るものではないことから、一般のメーカー同様の持続性の提供が必要条件となる。

今回の法人化はこれに応えるものであり、また国際貢献といった新しい試みを含む、更なる飛躍を実現するためのものである。

2005年7月5日

特定非営利活動法人 Seasar ファウンデーション

設立代表者 東京都目黒区青葉台 4-4-20-501

栗原 傑享